

✿ 毎月23日は「福岡市 子どもと本の日」です ✿

～ 子どもの読書活動を推進しましょう ～

□ 「平成29年度 福岡市小学生読書リーダー養成講座」が開催されました！

今年の小学生読書リーダー養成講座は、学校指導課と学校図書館支援センターの共催で6月10日・17日・24日の土曜日に3日間開催されました。講座に参加している子どもたちの姿に、小学生読書リーダーを、ぜひ、学校で活躍させてほしいと思いました。

開講式の挨拶を学校指導課長（10日）・中川総合図書館副館長（17日・24日）がされました。



（開講式での中川副館長の挨拶）

※ 小学生読書リーダーとは、

学校で読書の楽しさやおもしろさを伝えるリーダーです。下級生には、小学生読書リーダーの大切さを伝えることも大事な役目です。

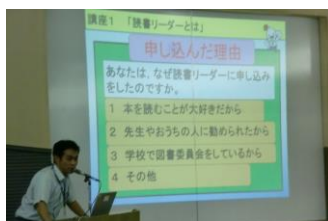
今年度は参加児童63名・参加校78校、昨年度より27名・11校増加でした。

《養成講座の次第》

- ・オリエンテーション
開講式
- ・講座1
「読書リーダーとは」
- ・講座2
「本の探し方」
- ・昼休み
- ・講座3
「絵本の読み聞かせ」
- ・講座4
「POPを作ろう！」
- ・修了式

講座1「読書リーダーとは」

講師は、学校指導課の鋤田主任指導主事でした。講師の先生から読書リーダーの役割などを学びました。子どもたちは少し緊張した様子でしたが、最後まで熱心に話を聞いていました。



（鋤田主任指導主事の話）

講座2「本の探し方」

講師は、学校図書館支援センターの重村読書相談員でした。講師の先生から、図書館の本は日本十進分類法の分類で書架に並んでいることなどを学びました。子どもたちは、緊張もほぐれ講師の先生の質問にも元気よく手を挙げていました。



（重村読書相談員の説明）



（元気よく手を挙げる子どもたち）



（集中して説明を聞く子どもたち）

講座3「読み聞かせ」

講師は、学校図書館支援センターの小久井読書相談員でした。講師の先生から、読み聞かせをする時の本の持ち方や読み聞かせをする本の選び方を学びました。その後、10人程のグループに分かれ読み聞かせの実習をしました。実習では、最初に、本の持ち方やページのめくり方などに気を付けて、読み聞かせの練習をしました。最後に、グループの人の前で、一人ひとり読み聞かせをしました。図書委員会の活動などで読み聞かせの経験をしていた子もいましたが、みんなとても上手でした。



(小久井読書相談員の本の持ち方の説明)



(グループの人に読み聞かせ)



(読み聞かせの後ろで保護者も見学)

講座4「POPを作ろう！」

講師は、重村読書相談員でした。講師の先生から、最初に、POPを上手に作るためのコツなどを学びました。その後、実際に、自分が持ってきた本を使ってPOPを作りました。みんな折り紙を使ったり、ハサミで紙を切ったりしてPOPを作ることに集中していました。最後に、自分が作ったPOPを紹介しました。



(POPを作るときの説明)



(ペンやテープなどを使って一生懸命POPを作る)



修了式

木下学校指導課長・中川総合図書館副館長から6年生の代表の子に、参加者を代表して認定証を渡しました。その後、係りの人から全員に認定証と認定バッチを渡しました。バッチをもらうと、すぐにバッチを胸につけて、周りの友だちに自慢している子もいました。



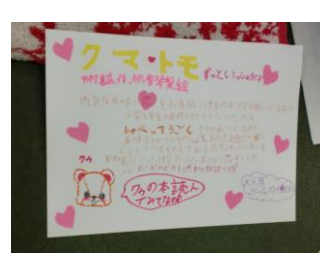
(木下課長から認定証渡し)



(小学生読書リーダーのバッチ)



(形を工夫したpop)



(色紙を♡の形に切って作った
かわいいpop)

Hello! 学校図書館

福岡市内の小中学校，特別支援学校を訪問し，図書館の様子などを紹介していきます。
学校の図書館の運営や環境づくりなどの参考になればと思います。
今月は，今年4月に開校した西都小学校の図書館を紹介します。

1 西都小学校

西都小学校は，児童数757人，25学級です。1階の子どもたちの昇降口の近くに図書館があります。館内がとても明るい図書館です。

○ 図書館の出入口



← (出入口の戸には，毎月の貸し出し冊数を掲示)



(2面の廊下に面している図書館)

← (機関車に引かれた客車の紙には，子どもたちが書いたおすすめの本の紹介が書いてあります。客車は，紹介の紙が出される度に，どんどん長くなります。)

○ 図書館の前方



(すっきりしているカウンター)



(季節にあった本の紹介)

前面の壁に図書館の使用割や使う時の注意事項などが掲示してありました。

○ 書架



(外に面した窓の下に書架)



(大きく見やすい表示)

○ 閲覧用机と椅子



(図書館の雰囲気を和らげる丸い机)



(軽い机と椅子)

♪ 福岡アジア美術館 「8月の案内」



＊アジアの絵本と紙芝居の読み聞かせ：（8月）

22日（火），27日（日）

（福岡アジア美術館での読み聞かせ）

・時 間： 11：30 ～12：00 ， 13：00～13：30 （1日2回）

・場 所： 7階「キッズコーナー」（申し込み不要）

おいでよ！絵本ミュージアム2017（夏休み恒例のイベント）

・会 期： 7月20日 ～8月20日 ※会期中無休

・時 間： 10：00 ～18：00 （入場は17：30まで）

・料 金： 一般1000（800）円 ， 高・大生700（500）円
小・中学生500（300）円 ， 未就学児（無料）

※（ ）内は前売り，団体料金

・内 容： 11回目を迎える今回のテーマは，「いっしょに」。

絵本を通して，いっしょに遊んだり，創ったり，暮らしたり，
冒険する楽しさ，家族や仲間がいることの大切さ，参加する
おもしろさを伝えるべく，五感に働きかける様々なオブジェ，
絵本の世界観を感じることができる空間をプロデュース。



7月20日-8月20日
（おいでよ！絵本ミュージアム2017）のポスター
（c）たちもとみちこ

※ 7月20日～8月20日は，「おいでよ！絵本ミュージアム2017」の一環で絵本の読み聞かせを毎日開催！ 11：30～， 13：00（1日2回）

（詳しくはイベントHP参照 <http://www.kodomo-abc.org/ehonmuseum2017/event.html>）

♪ 福岡市総合図書館「8月の案内」

＊毎月のお話し会：（8月）

5日（土），6日（日），12日（土），13日（日）

19日（土），20日（日），26日（土），27日（日）

＊時 間： 土曜：14：30～（幼児向け） 日曜：14：30～（幼児向け），15：15～（幼児～小学生向け）

＊場 所： 「こども図書館 おはなしの家」



□ 図書館員のひみつの本棚《No.135》

福岡市総合図書館 読書相談員の重村さやかさんが，毎月素敵な本を紹介してくださる楽しみなコーナーです。

今回の本は，高校生や大人の私たちが読むのにぴったりの歴史小説です。

✿ 今月の本

『闇の女王にささげる歌』

ローズマリー・サトクリフ／著 乾侑美子／訳

評論社 2002年 1，728円

8月生まれの文学者たち



あまんきみこ（阿萬紀美子）と「車のいろは空のいろ」

1931年8月 満州生まれ

あまん氏は、14歳の時に満州から帰国し、その後、下の子が幼稚園に入園したのを機に、日本女子大学児童学科通信教育部に入学しました。この時に書いたレポートがきっかけで37歳の時に書いたデビュー作品が、「車のいろは空のいろ」です。

「車のいろは空のいろ」の主人公であるタクシー運転手の松井五郎さんが乗せる客は、動物だったり、ある時は、道路や地面でないところを走ったり、時間と空間を往復したりする物語です。また、作品の発表後、版を重ねる日本の代表的なファンタジー作品です。

2人の子どもに話を考え聞かせてあげるのが好きだったあまん氏自身は、小さいころは病気がちで、寝て過ごすことが多く、窓から色々な想像を働かせて空の絵本を見ていました。また、雨が降っているところと晴れているところの境目に行ってみたいと思うなど、いろいろなことを不思議に思っていました。このような経験があまん氏の作品につながっています。

あまん氏の作品は、「きつねのみちは 天のみち」など、日常から不思議な世界に入る作風が魅力です。一貫して幼年から高学年向けのファンタジーを描き続ける、数少ない日本のファンタジー作家です。



末吉暁子（すえよしあきこ）と「ざわざわ森のがんこちゃん」

1942年8月 神奈川県横浜市生まれ 2016年5月 73歳没

末吉氏は、青山学院女子短期大学英文科を卒業後、講談社に勤務し、主に児童文学の編集を担当しました。退社後、執筆活動に専念しました。

「ざわざわ森のがんこちゃん」の設定では、環境汚染の影響で一部の地域を除いて地球は砂漠化し、人類は既に絶滅していました。そこでは、かつて人間による遺伝子操作によってつくられた高度な知能を持つ恐竜などの動物達や河童などの架空の動物たちが、人類に代わり地球で文明を営んでいました。「ざわざわ森のがんこちゃん」は都会から、まだ自然が残る「ざわざわ森」へ引っ越してきた恐竜一家と、その仲間達の物語です。毎回のストーリーは子どもに分かりやすいですが、その設定は深いものです。

末吉氏は、1996年より放送開始のNHK教育テレビの人形劇「ざわざわ森のがんこちゃん」の脚本を執筆しました。また、小学校低学年の道德の授業の教材としても使用されました。

末吉氏は、ロングセラー「ぞくぞく村のおばけ」シリーズや「ざわざわ森のがんこちゃん」のような幼い子どもの心をつかむ楽しい幼年童話と、論理性と空想性が一致した長編ファンタジーの分野との両輪で書き続けました。また、恐竜や怪獣を使った作品が多いのも特徴の一つです。

♪ あとがき * * * * *

毎日、暑い日が続き、クーラーの効いた部屋が本当にありがたいと思います。

さて、今年度の小学生読書リーダー養成講座で参加した子どもたちのアンケートを読むと、「本がどこにあるか聞かれたときに、すぐに本を探してあげることができる。」「図書委員だから読み聞かせ講座で学んだことを生かせる。」「ポップを作って、他の人に多くの本を紹介したい。」など、講座で学んだことを学校で活用したいという感想が多く書かれていました。中には、「この講座で学んだことを生かしてもっとすばらしい図書館にしてみせます!」と、強い決意が書かれたアンケートもありました。2学期からの小学生読書リーダーの活躍が楽しみです。

この通信ではできるだけ色々な学校の読書活動例を紹介したいと思っています。学校から図書館や読書活動に関する情報をお待ちしています。

発 行： 福岡市教育委員会 生涯学習課

電 話： 7 1 1－4 6 5 5 F A X： 7 3 3－5 5 3 8

図書館員のひみつの本棚 第135回

今回は歴史小説です。

『闇の女王にささげる歌』

ローズマリー・サトクリフ／著 乾 侑美子／訳 評論社 2002年 1,728円

<お勧め年齢>

乳幼児—— 低学年—— 中学年—— 高学年—— 中学生☆
高 校☆☆☆ — 一般☆☆☆

(☆が多い年齢の子どもにお勧めです。)

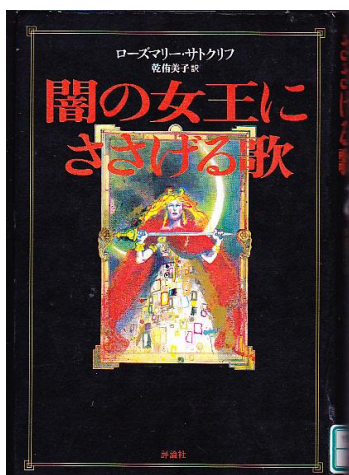
<本の紹介>

女王ブーディカ、ケルトの民族を集結させ、ブリテン島に侵攻してきたローマ帝国と、民族の尊厳を守るために戦った伝説の女王。イギリス人なら誰でも知っているという彼女を、女王の竖琴引きを語り手として描いた歴史小説。

ブーディカは女家長制だったイケニ族で、生まれたときから女王となるべく誇り高く育つ。しかし、イケニ族の暮らすブリテン島に侵攻し、占領を開始したローマ帝国は女王を認めなかった。彼らは、ブーディカの夫でイケニ族の王であるプラスタグスの死をきっかけに、イケニの民と領土と、一族の尊厳を力づくで奪う行動に出る。それまで、ローマ帝国との同盟の道を選んできたイケニ族だったが、ブーディカは、ローマ帝国に虐げられてきたケルトの民族を集結させ、民族の尊厳を守る戦いを始めることを決意する。それは、イケニの女王が闇の女王となった日だった。

<子どもに手渡す時のポイント>

物語の舞台となっているブリテン島がたどってきた歴史について、少し説明を加えてあげると、物語の成り立ちが理解しやすくなると思います。ただ、それを知らずに読んでも、途中で投げ出すことができなくなるほど力のある物語です。作者は他にもブリテン島を舞台にした歴史小説を数多く書いているので、気に入った生徒にはぜひ他の作品も紹介してあげてください。



※他の作品

- ・第九軍団のワシ (岩波少年文庫) 岩波書店
- ・運命の騎士 (岩波少年文庫) 岩波書店
- ・辺境のオオカミ (岩波少年文庫) 岩波書店

このコーナーで紹介した本はお近くの図書館や書店に置いてあります。ぜひ手にとってみてください。

総合図書館 重村さやか